

スライドの枚数が多いので、
講演前のダウンロードを
お勧めします。

第62回LET全国研究大会・基調講演

テーマ：外国語教育と「技術革新」：変わるもの、変わらないもの

日時：2023年8月9日（水）10:00-11:00

AIによる英語教育の 商品化と格差の拡大 を防ぐ


—テクノロジーは人権尊重のために—

京都大学・国際高等教育院

柳瀬陽介

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/>

<https://app.box.com/s/7i6sb621ps7jx9uzi73nhcs57w7szmmy>



ニャンゲンよ、
よく考えて行動
してくれ

地球までダメにし
たら許さんからね。

第62回LET全国研究大会・基調講演

テーマ：外国語教育と「技術革新」：変わるもの、変わらないもの

日時：2023年8月9日（水）10:00-11:00


AIによる英語教育の 商品化と格差の拡大 を防ぐ

—テクノロジーは人権尊重のために—

京都大学・国際高等教育院

柳瀬陽介

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/>



最近の
気になる記事

「聞いてるふり」は通じない？ 集中しない生徒をリアルタイムで把握 教員からは期待、「管理強化」に懸念も

6/21(水) 10:00 配信

1394



リストバンド型端末と、脈拍データを集約してサーバーに送る小型機器

授業中の生徒が集中しているかどうかを、教師がリアルタイムで把握する。まるで漫画や小説の世界のような取り組みが、ある公立中学校で試験的に始まっている。生徒の脈拍から「集中度」を割り出しているといい、校長や教員からは、上手に活用すれば教育をより良くできると期待の聲が上がる。

一方、使い方次第では子どもや教員の管理強化にもつながりかねない。現場を訪ねると、驚きの光景が広がっていた。（共同通信＝小田智博）

気になる記事1

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8ad2010ecaa0c279e014640d39b6c33bda3e8a4df>

生徒の手首にはリストバンド、教諭の手元には「集中度」の折れ線グラフ

ベネッセが撤退へ 都立高入試の英語スピーキングテスト トラブル多発、本格導入からわずか2年

2023年7月14日 06時00分

英語の「話す力」を東京都立高入試に使うため、昨年からはまった英語スピーキングテストを巡り、都教育委員会は13日、出版大手「ベネッセコーポレーション」が本年度限りで運営から退くと発表した。新たな事業者には英国の公的な国際文化交流機関「ブリティッシュ・カウンシル」を選んだ。テストでは機器の不具合や音漏れのトラブルが発覚したほか、運営や採点方法など多くの問題が浮上。ベネッセは当初から運営に関わってきたが、本格導入からわずか2年で撤退する形となった。（三宅千智）

◆ベネッセは応募せず

都教委によると、ベネッセと結んだ協定の期間が2023年度末で終了するため、6月9日まで事業者を募ったところ、ブリティッシュ・カウンシルのみが応募したという。

今年11月に実施予定で、来年の入試に使われる中学3年のテストはベネッセが担う。23年度から新たに導入する中学1、2年のテストと、再来年の入試に使う中学3年のテストは、ブリティッシュ・カウンシルが運営する。期間は28年度までの6年間。7月中に基本協定を締結する。

◆新たな業者は「IELTS」運営、東京外語大入試でも実績



昨年11月の英語スピーキングテスト＝東京都教育委員会提供

気になる記事2

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/263027>

“If you want something done but don’t want to get your hands dirty, McKinsey will do it for you.”

That **escape from accountability** is one of the most valuable services that management consultancies provide.

気になる記事3

THE
NEW YORKER

News Books & Culture Fiction & Poetry Humor & Cartoons Magazine Puzzles & Games Video Podcasts Archive Goings On Shop

ANNALS OF ARTIFICIAL INTELLIGENCE

WILL A.I. BECOME THE NEW MCKINSEY?

As it's currently imagined, the technology promises to concentrate wealth and disempower workers. Is an alternative possible?

By Ted Chiang
May 4, 2023

<https://www.newyorker.com/science/annals-of-artificial-intelligence/will-ai-become-the-new-mckinsey>

大変化の時代に
こそ長期的指針
が必要

Another turning point in human history?



本日の構成

1. はじめに：AIを活用する実践者としての
批判的考察
2. 英語教育の商品化と社会の格差拡大の阻止
3. 英語授業における自由と（尊厳と権利に
おける）平等の促進
4. おわりに：残された課題・さらなる指針



1



まずは発表者の基本姿勢
を理解するニャン。

はじめに：
AIを活用する
実践者としての
批判的考察

1.1 発表者の主な
AI活用実践

1.2 必要な問いと
原則

1.3 本発表の前提

1.4 英語教育にお
ける帰結

1.1 発表者の主なAI活用実践

• 学術英語エッセイの語法添削と2種類の文体改訂

- 語法添削に加えて、米国の大学入学レベルと学術誌レベルの2種類の文体改訂を提示する。
- 学生には“Upgrade Your Voice” “Your Words, Your Identity” と伝える

• 学術英語語彙の自学自習

- 学習者とChatGPTの対話：ChatGPTは定義・例文・類義語などを提示し、学生の例文を添削・改訂
- 学生は「できるだけ長く具体的な例文を書いて間違えなければ単語は使えるようにならない」と述懐

• 音声英会話

- 英語圏で知られている話題ならどんな話題でも対応

英語教育におけるAI利用の基本方針は 2021年前半に確立

- 2021/05/20: 【約3万5千字】 AI時代の英語教育：大学Academic English指導者の立場からの提言
<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2021/05/35ai-academic-english.html>
- 2021/05/20: 【約7,000字】 AIの発展を踏まえた上でのこれからの大学英語教育についての一考察
<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2021/05/7000ai.html>
- 2021/06/11: 6/19ELPA講演「英語教育は「道具としてのAI」をうまく活用できるのか？」の投映スライドの公開
<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2021/06/619elpaai.html>



2023年度前期実践：“A Teacher in the Loop”？

1-4のループを
繰り返す

4



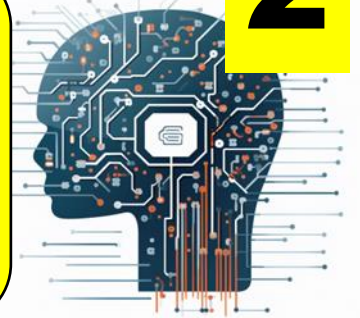
教師が学習者のレ
ポートにコメント

学習者が、英文を
AIに入力



1

AIが、添削・改訂
(2種類) を出力



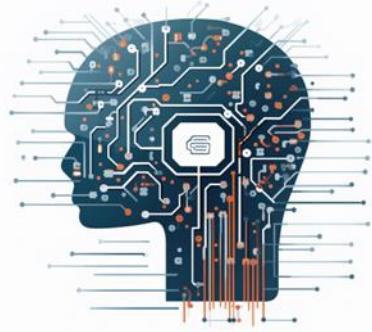
2

3



学習者がAI出力を省
察し最終版を作成。
レポートを提出

AIと教師の支援による自律学習の実現



AIによる潤沢な教材提供

学習者の自律学習
(目標とレベル)

個別最適化された
教材での学習

教師による協働学習の促進と個別支援

この4ヶ月で作ったプロンプトなど

学術英語添削・改訂

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/05/chatgptver2.html>

対話式語彙学習

https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/04/chatgpt_9.html

語彙リストに定義と例文を提供

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/06/chatgpt.html>

英語スピーチ対策

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/06/12chatgpt.html>

プレゼンテーション準備

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/06/ai.html>

ChatGPTと音声会話

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/04/chatgpt.html>

ChatGPTと音声会話（初級者）

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/04/chatgpt31chatgpt.html>

高校生用添削・改訂

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/06/gpt-35chatgpt.html>

JACET中部支部講演

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/06/ai-jacet.html>



<https://www.youtube.com/watch?v=JNbyWv4yQng>

「AIの導入で英語授業はより人間的になった — 実践速報に基づく考察」(2023年6月10日(土) JACET中部支部大会基調講演) 柳瀬陽介(京都大学・国際高等教育院)

 Yosuke YANASE
53 subscribers

Analytics

Edit video

Like

Share

Download

...

だが本講演は長期的なvisionについて語る

Approach

Vision

本講演の依頼は、
2022年12月

Method

Direction

Technique

Discretion

17

孫悟空はある時、世界の果てから果てまで筋斗雲で移動したが、実はそれはお釈迦様の手の上でのことだった。人間には、ChatGPTの可能性を凌駕するような広く深い知恵が必要だ。

「ChatGPTは孫悟空」



英語教師のための アナログ×デジタル 活用ガイド

先生の学びと授業・校務——ICTで支えるために

第1部

授業を効果的に・楽しくする

アナログ×デジタル 活用法大集合

小中高大の先生方の授業場面に応じたICT活用法。
読者投稿も多数掲載!

第2部

自動翻訳・対話型AIで

変わる英語学習・指導

生成AIや自動翻訳などの技術をどうとらえるか。
導入事例から探る指導へのインパクト

第3部

アナログ×デジタル活用の

校務効率化アイデア

ICTベースにシフトつつある
課題や連絡のやり取り、成績管理。
先進導入例に見る効率的な活用方法とは

LETはテクノロジー系の
学会なんですけど・・・



でもLanguage Education *and* Technologyですよね。

1.2 必要な問いと原則

- 問い：
 - 技術主導の問い（「AIは何ができるか？」）から、
 - 人間主導の問い（「人間はAIに何をさせるか？」）への移行が必要
- 原則：
 - 人間はAIを近代社会の歪みを悪化させる方向に使ってはならない。
 - AIは人間社会の理想に近づくために使うべき

気になる記事1

「聞いているふり」は通じない？ 集中しない生徒をリアルタイムで把握 教員からは期待、「管理強化」に懸念も

6/21(水) 10:00 配信 1413



リストバンド型端末と、脈拍データを集約してサーバーに送る小型機器

授業中の生徒が集中しているかどうかを、教師がリアルタイムで把握する。まるで漫画や小説の世界のような取り組みが、ある公立中学校で試験的に始まっている。生徒の脈拍から「集中度」を割り出しているといい、校長や教員からは、上手に活用すれば教育をより良くできると期待の聲が上がる。

一方、使い方次第では子どもや教員の管理強化にもつながりかねない。現場を訪ねると、驚きの光景が広がっていた。（共同通信＝小田智博）

生徒の手首にはリストバンド、教諭の手元には「集中度」の折れ線グラフ

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8ad2010ecaa0c279e014640d39b6c33bda3e8adf>

問いと原則の
共有により
消したい
選択肢

1.3 本発表の前提

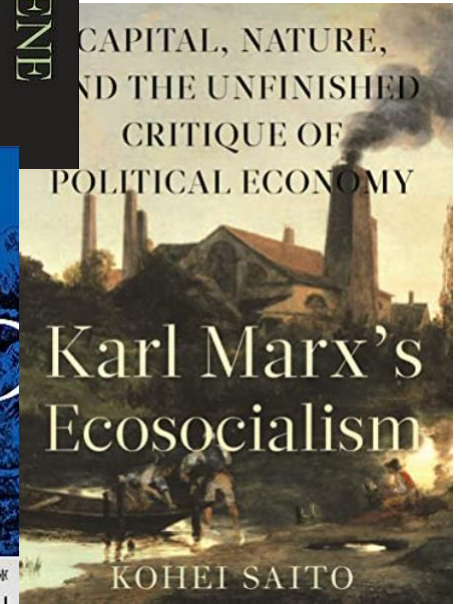
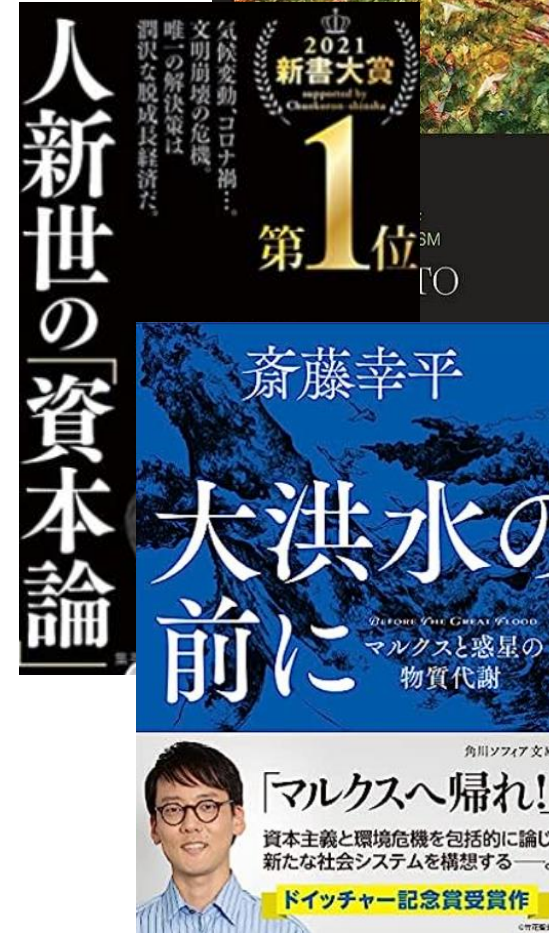
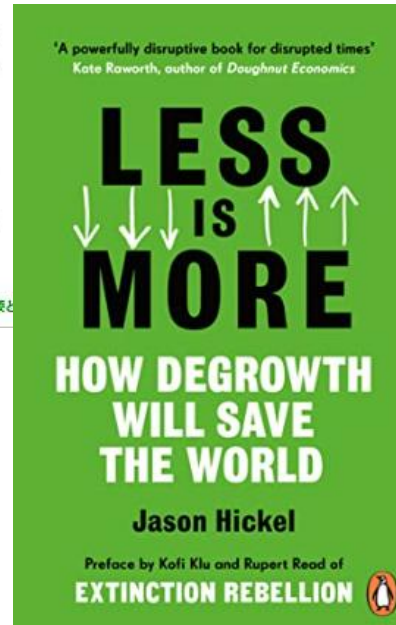


By Evgeny Morozov

Mr. Morozov is the author of "To Save Everything, Click Here: The Folly of Technological Solutionism" and the host of the forthcoming podcast "The Santiago Boys."

June 30, 2023

<https://www.nytimes.com/2023/06/30/opinion/artificial-intelligence-danger.html>



マルクスは「自分はマルクス主義者ではない」と友人に語っていた。

史的システムとしての資本主義

ウォーラーステイン 著

川北 稔 訳



壮大な〈世界システム論〉を唱えたウォーラーステイン(1930-2019)。資本主義をひとつの歴史的な社会システムとみなし、「中核/周辺」「ヘゲモニー」「帝国」「反システム運動」などの概念を用いて、その成立・機能・問題点を鋭く描き出す。現代世界を批判的に検討し、未来を展望するうえで示唆に富む1冊。



青N401-1
岩波文庫

かれが自ら私はマルクス主義者ではないと称した事実は、真面目に受け取るべきであり、断じてたんなる洒落として片づけたりするべきではない。

マルクスは、多くの自称マルクス主義者とは違って、自分が19世紀の人間であり、したがって自分の描くヴィジョンが、必然的にその社会の現実によって制約されていることをよく知っていた。(p. 7)

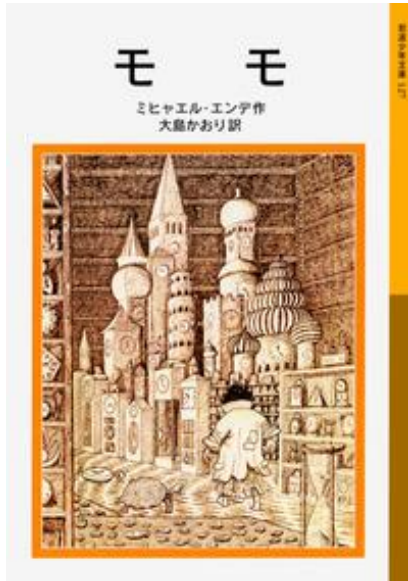
近代社会の大前提となつて
しまった資本主義

“It seems to be easier for us today to imagine the thoroughgoing deterioration of the earth and of nature than the breakdown of late capitalism.”

Frederic Jameson



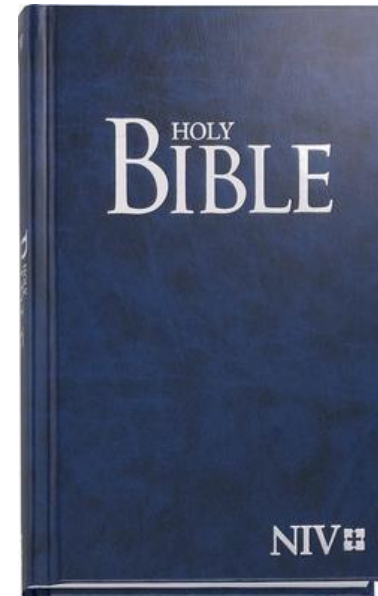
資本主義批判あるいは資本主義以前の知恵



Fair Use

<https://www.iwanami.co.jp/book/b269602.html>

たしかに時間貯蓄家
たちは・・・いい服
装はしていました。
お金もよけいにかせ
ぎましたし、使うの
もよけいです。けれ
ど彼らは、ふきげん
な、くたびれた、お
こりっぽい顔をして、
とげとげしい目つき
でした。



Fair Use

https://en.wikipedia.org/wiki/New_International_Version#/media/File:Bible_-_New_International_Version_2011_-_Blue.jpg

What good will it be
for someone to
gain the whole
world, yet forfeit
their soul? Or what
can anyone give in
exchange for their
soul?

Matthew 16:26

そんな**非科学的な議論**をされても困るんですけどねえ・・・



予想される反応

えっ、**すぐに使えるAI活用法**を教えてくださいませんか？



英語教育実践は社会の中に埋め込まれている。
広い視野で考えることが必要

工学的アプローチ

**Divide
and
Rule**

分割して統治せよ

生態学的アプローチ

**Connect
and
Unite**

連結して統合せよ

1.3 本発表の前提

資本主義・新自由主義的行動様式で人間を疎外することを、AIでさらに加速させてはいけない。

資本主義：資本の永続的増大を究極の目標として、人間を含む自然を商品とすることで、搾取し続ける行動様式

新自由主義：人間社会の公的営みを次々に商品化する行動様式

疎外：人が生み出したものが、逆にその人を支配して、その人らしさを奪うこと

しかし、英語教育の学会で、中途半端な資本主義批判をするのは**欺瞞**か**茶番**。

英語教育の具体的な事例に即して考察しなければならない。

英語教育の学会を似非インテリや数値オタクの養殖場にしてはいけないニャン。

学会はまず学習者のことを考えるニャン！

1.4 英語教育における帰結

1. 英語教育の商品化と格差拡大の阻止：

- AIを使って、これ以上英語教育を「**英語力**」を**商品**ひいては**貨幣**のように扱って、学習者と教師を**疎外**し、**格差**を拡大再生産してはいけない。

2. 学習者の自由と（尊厳と権利における）平等の促進：

- AIによって**自律的学習**を推し進め、**学習者一人ひとりの尊厳と権利**を尊重する。

本日の構成

1. はじめに：AIを活用する実践者としての
批判的考察
2. 英語教育の**商品化**と**社会の格差**
拡大の阻止
3. 英語授業における自由と（尊厳と権利に
おける）平等の促進
4. おわりに：残された課題・さらなる指針



2

英語教育の 商品化と 格差拡大 の阻止



「英語力」という当たり前に思える概念を分析するニャン。

- 2.1 英語力という商品
- 2.2 偏差値という商品
- 2.3 英語力テストという商品の貨幣化
- 2.4 格差拡大の阻止

2

英語教育の
商品化と
格差拡大
の阻止

結論：

公教育としての英語教育の成果を、すべて自動採点して「英語力」の商品・貨幣的性質を増大させるようなAIの使い方は止めよう。

2. 英語教育の商品化と格差拡大の阻止

—

2.1 英語力という商品

2.2 偏差値という商品

2.3 英語力テストという商品の貨幣化

2.4 格差拡大の阻止

「英語力」という
商品ができるまで

抽象化の連続とその反転

EU-A₁

Aさんがある時、英語を使った
(English Use-A₁: EU-A₁)



EU-A₁

EU-A_{1-F1}

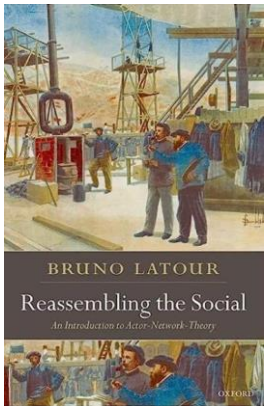
EP-A_{1-F2}

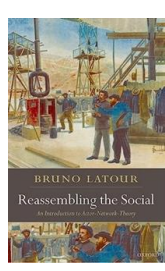
EP-A_{1-F3}

EP-A_{1-F4}

EP-A_{1-Fn}

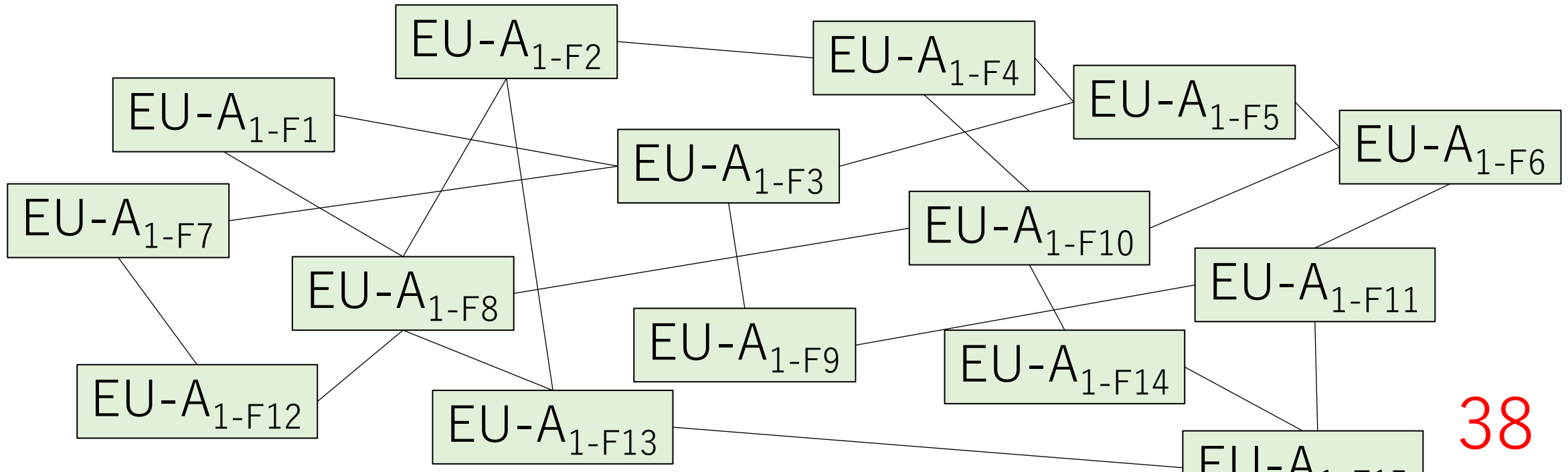
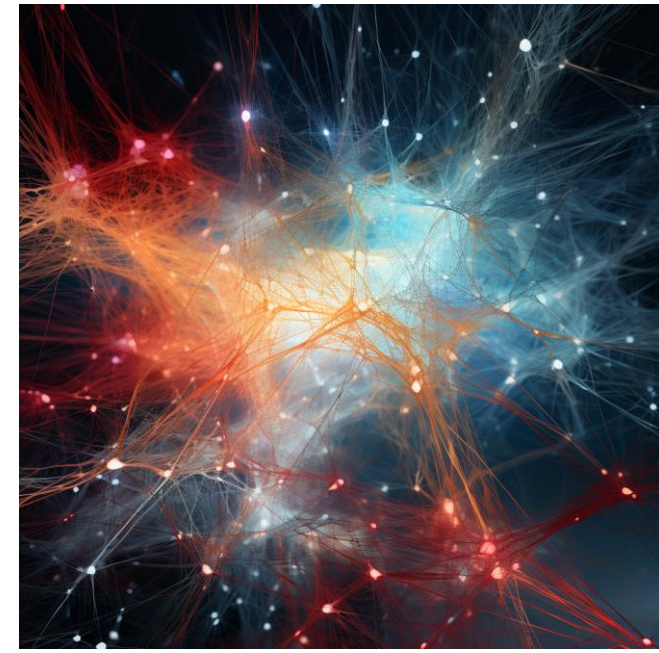
EU-A₁は、さまざまな
 要因・作動起因性
 (factor / agency)
 の相互作用を抽象化
 して総称した観念である。

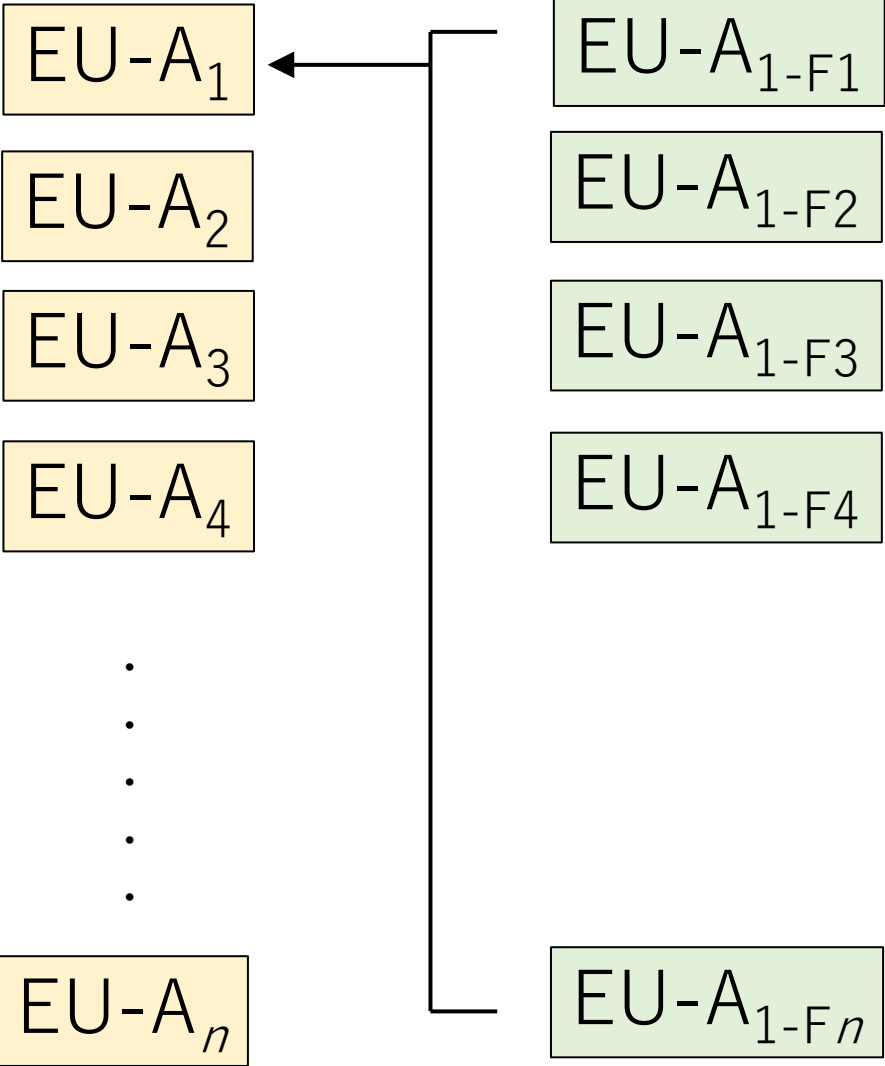




解説:

特定の**行為・作用が創発**するのは、
それぞれが作用起因性 (agency) を有した要
因によって構成される**ネットワークが特定
の状況になった時**、と考える。





Aさんは、さまざまな
英語使用を行う
(EU-A₁~EU-A_n)

それぞれの英語使用も、
それぞれに異なる
要因・作用起因性の相互作用
から生じている。

Use

Factor (Agency)



EP-A

EU-A₁

EU-A₂

EU-A₃

EU-A₄

⋮

EU-A_n

EU-A_{1-F1}

EU-A_{1-F2}

EU-A_{1-F3}

EU-A_{1-F4}

⋮

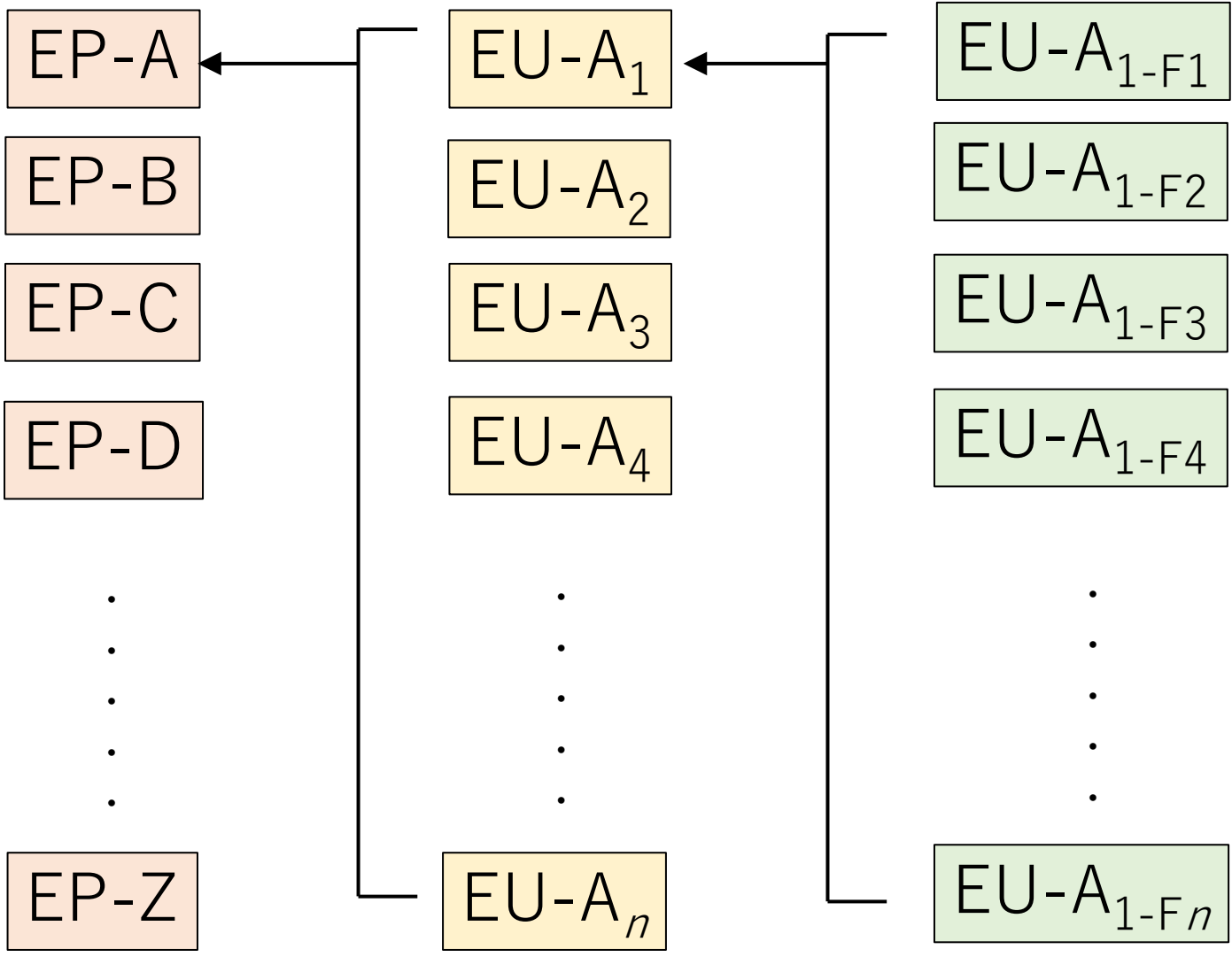
EU-A_{1-Fn}

Aさんのさまざまな
英語使用は、
Aさんの英語力
(English Proficiency-A:
EP-A) として
抽象化される。

Use

Factor (Agency) 40

← 抽象化の普及



他のさまざまな
人々の
英語力も
抽象化される。
(EP-A~EP-Z)

Person

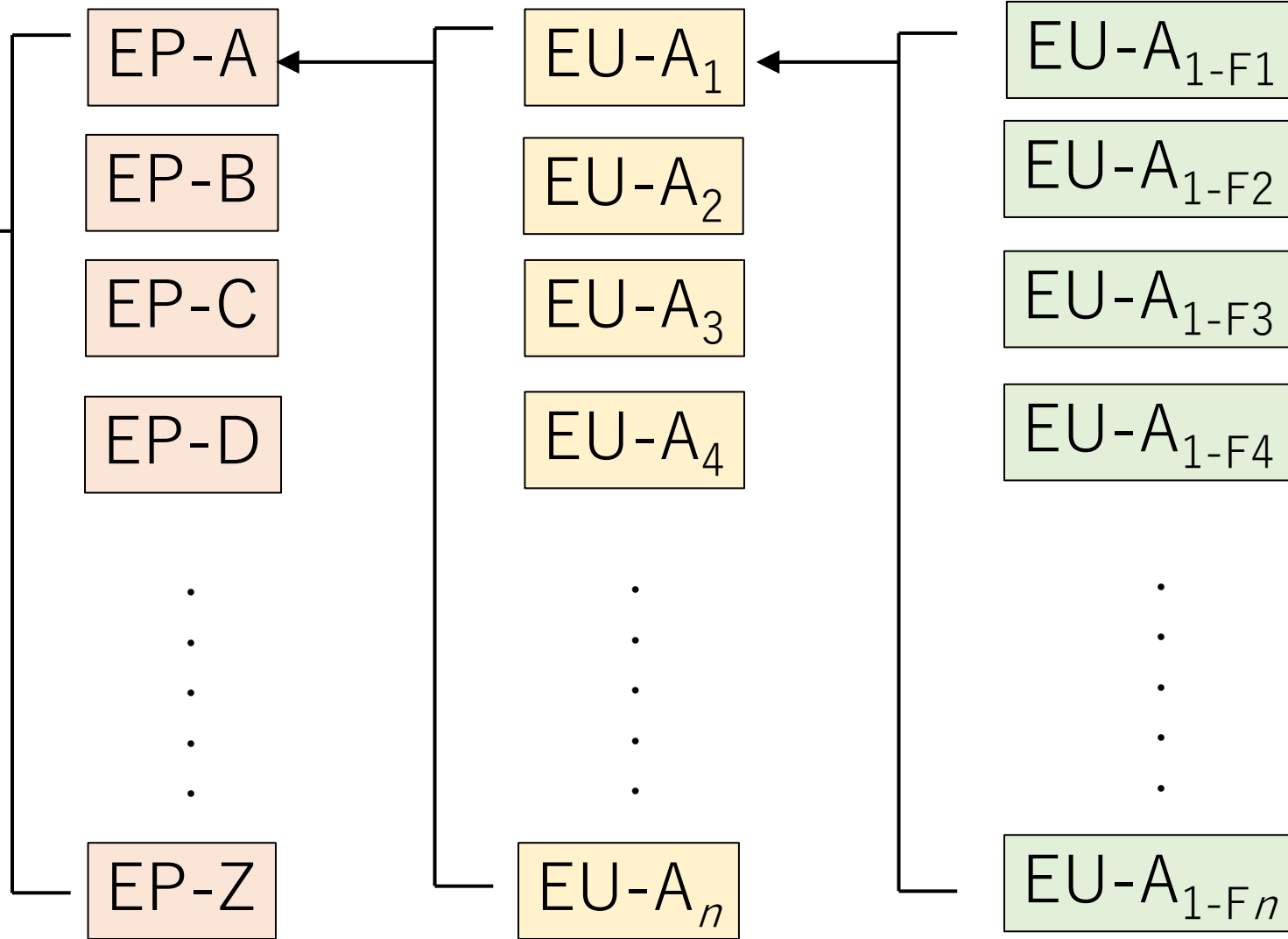
Use

Factor (Agency) 41

さらに重ねての抽象化

English Proficiency (EP)

さまざまな人々の英語力が「英語力」として構想される。



Person

Use

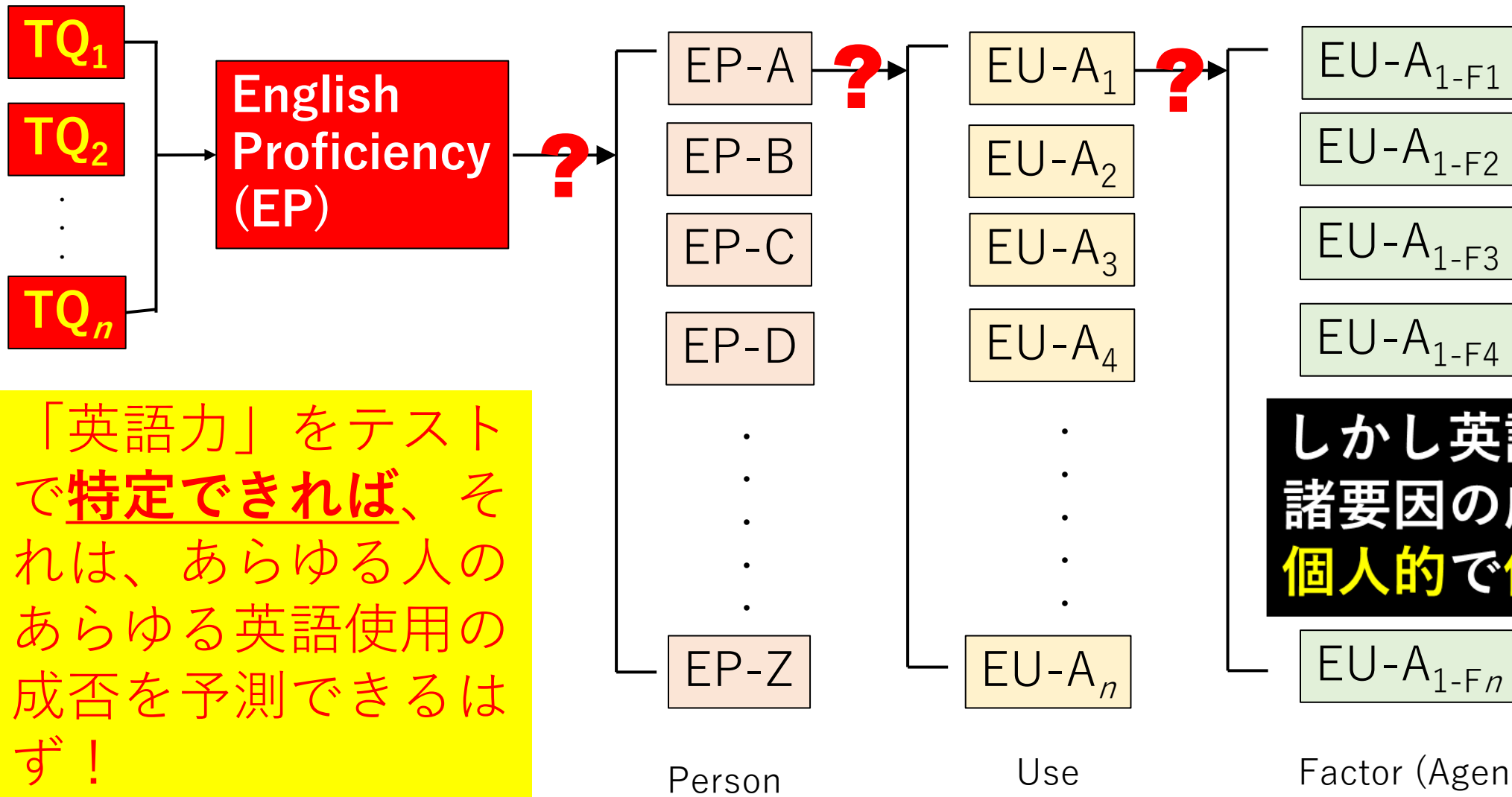
Factor (Agency) 42

ここで論理が反転する

矢印が逆方向になる



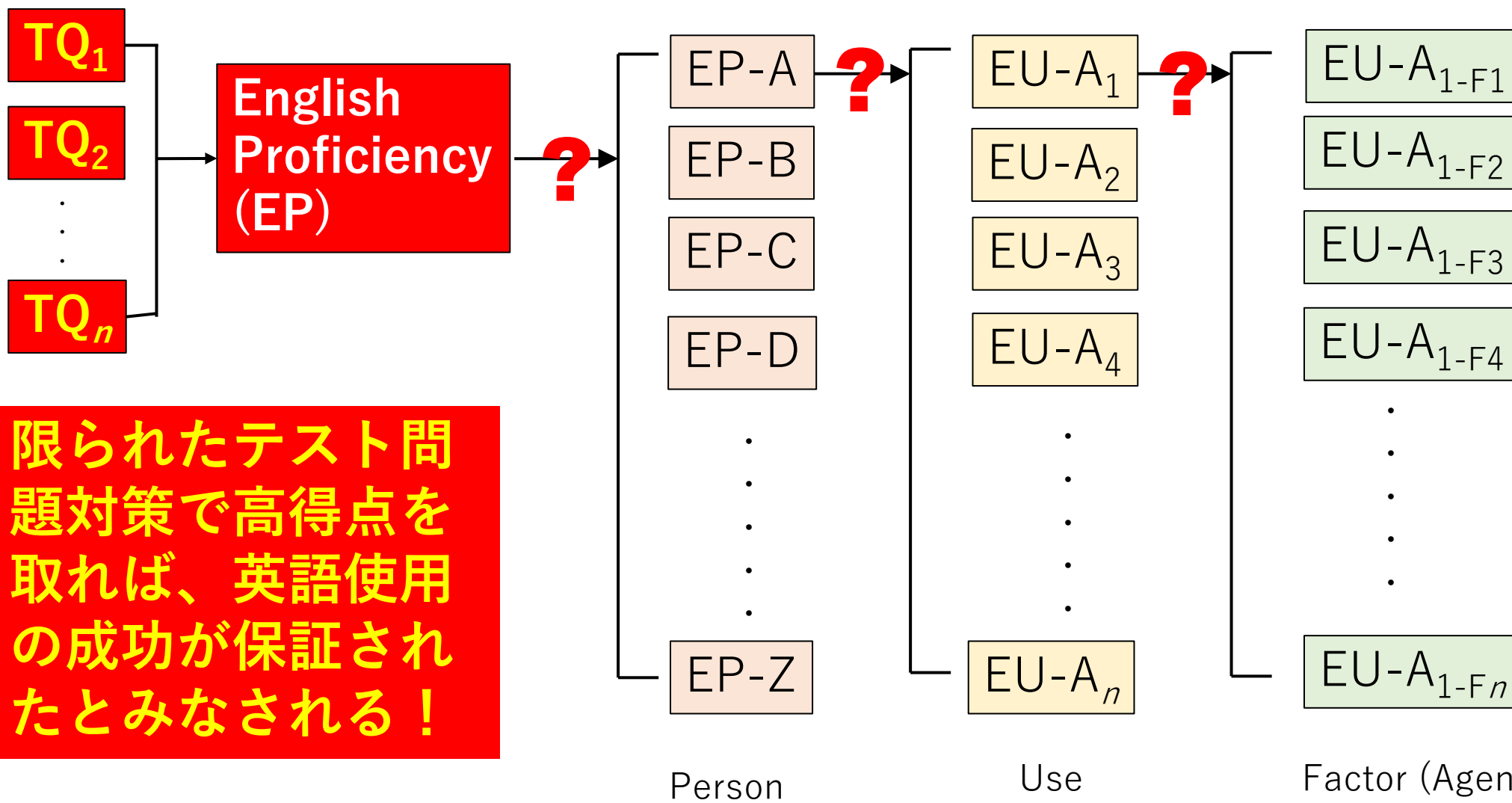
「英語力」からの英語使用の成否の予測？



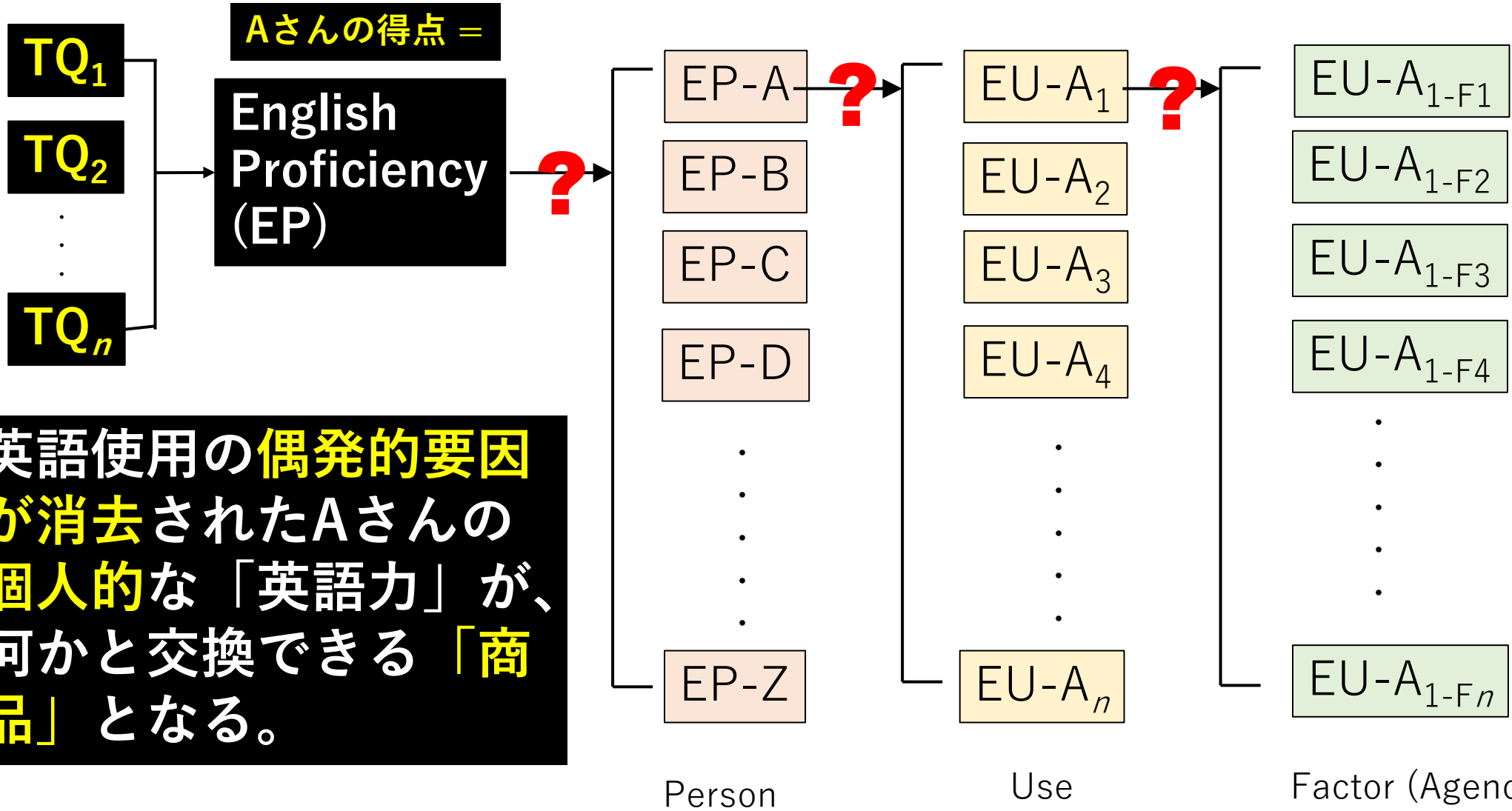
「英語力」をテストで特定できれば、それは、あらゆる人のあらゆる英語使用の成否を予測できるはず！

しかし英語使用の諸要因の成立は**非個人的**で**偶発的**

「英語力」を測定するテストの高得点は英語使用の成功を保証？



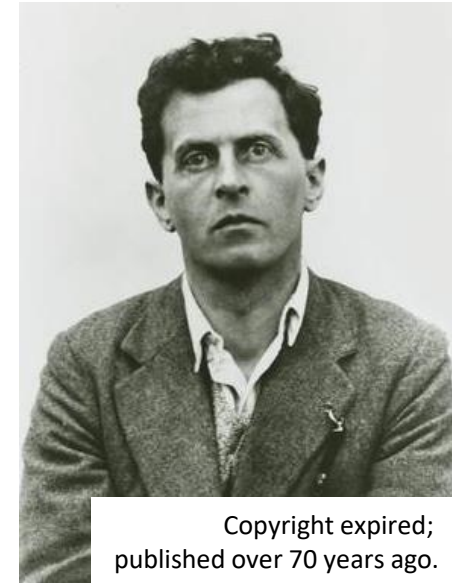
テスト得点で示される「英語力」を私有することが学習の成功？



英語使用の偶発的要因が消去されたAさんの個人的な「英語力」が、何かと交換できる「商品」となる。

「英語力」という粗雑な観念が 英語教育を支配し人々を疎外する。

- **大規模標準テスト**の得点は、**現実世界での多様なコミュニケーションの成功**を**厳密に予測**はできない。
- しかし「**英語力**」の得点は、
 - 学習者にとっては**受験合格と交換**できる数値
 - 教師にとっては**社会的認知と交換**できる数値
 - 教育機関にとっては**予算と交換**できる数値
 - 政治家・行政官にとっては「**エビデンス**」となる。
- **さまざまな要因の作用起因性**を感じながら**英語を使う**かわりに、「**英語力**」**テストの得点向上に特化した学習・授業**を多くの関係者が好む。
- 「**英語力**」得点が**学校と学習者**にとっての**商品**のようになる（商品の説明は後でも述べます）



Copyright expired;
published over 70 years ago.

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ludwig_Wittgenstein_1929.jpg

2. 英語教育の商品化と格差拡大の阻止

—

2.1 英語力という商品

「英語力」と同じよ
うな論理とその反転

2.2 偏差値という商品

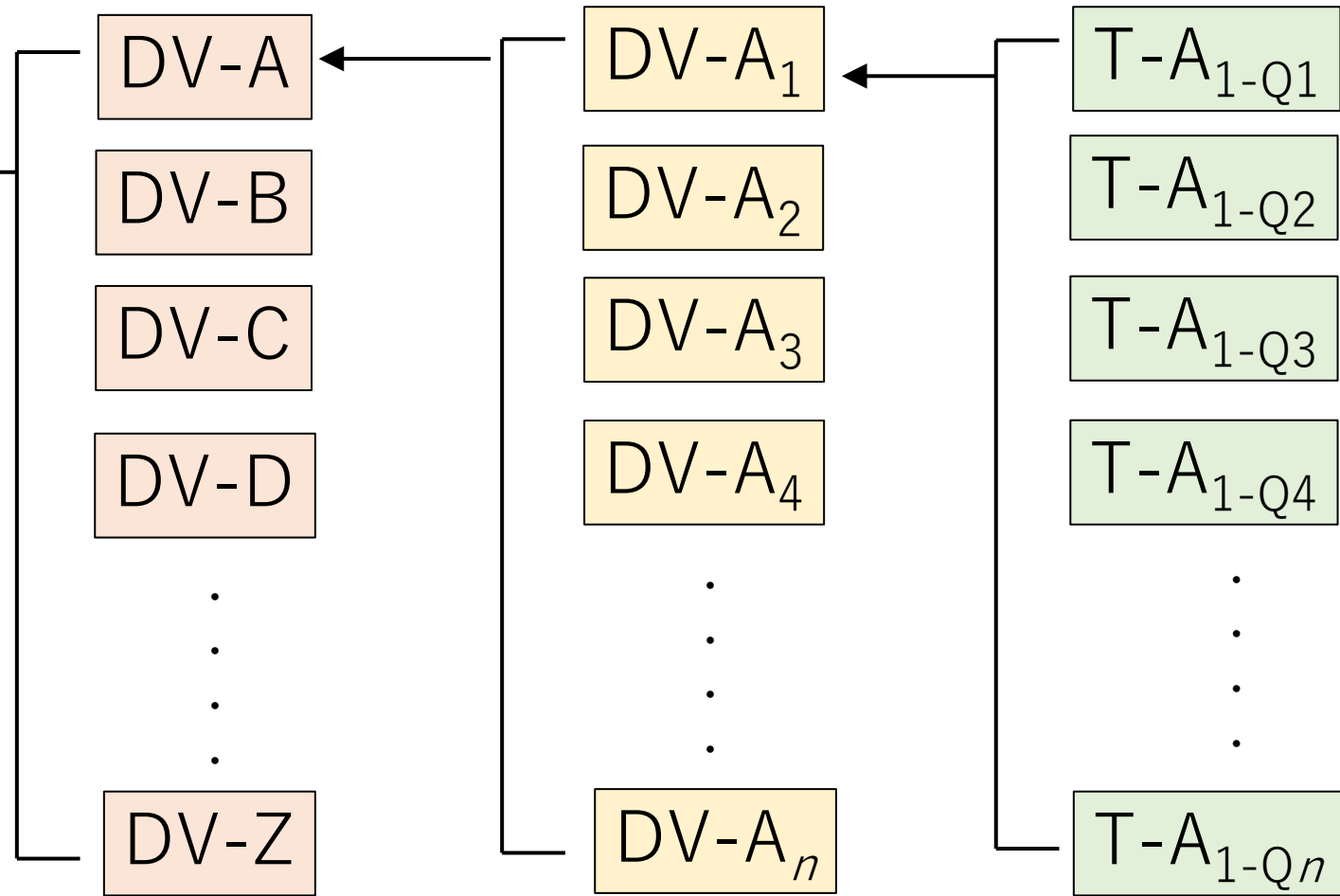
2.3 英語力テストという商品の貨幣化

2.4 格差拡大の阻止

何層もの抽象化

Deviation Value (DV)

Aさんのある教科(A₁)のさまざまなテスト問題得点が、**教科偏差値**そして**総合偏差値**になる。Aさんは**総合偏差値**で**一元的に位置づけられる**。



さまざまな人の偏差値

Aさんの各教科の偏差値

Aさんのテスト得点 (Q₁-Q_nの合計)

抽象化を重ねた数値が万能視される



- 各教科の偏差値の平均である**総合偏差値**（<**偏差値**>）は、**人間の知性の指標**のように扱われる。
 - <偏差値>が**エリート選抜・エリート意識**の根拠となる。
 - 学校は<偏差値>の最大化を「売り」（= **商品**）とする。
 - たとえ他によい方法がないにせよ、学びの総体を<偏差値>という形に**数値化・物象化・商品化**することで学びのあり方が歪む。
- ← さまざまな状況での**具体的な諸要因・作用起因性**を感じ取る**感性**とそれに応じて対応する**知性**を失う。

受験戦争の過熱が招いた画一的教育

田原 何で答えを求める教育は、いまだに変わらないのか？

田中 「受験戦争」が過熱したことが理由の一つです。最終的には、より有名で、0・1でも偏差値の高い大学に進むことが求められるようになっています。そのために効率よく勉強することだけを追い求めてしまっている。高校での学びを見ても、大学受験を見据え、文系のコースに進めば数学と理科を捨て、理系コースでは国語や社会を捨てるようなカリキュラムになってしまっています。



早稲田大の田中愛治総長にインタビューするジャーナリストの田原総一郎さん＝東京都新宿区で2023年5月18日午後2時50分、内藤絵美撮影

田原 かつて文部科学省の幹部たちに「大学入試で創造力がある人間を入れたいのなら、創造力があるかどうかを見極めるような試験問題にした方がいいじゃないか」と意見したことがある。そしたら「言うとおりで、そんな問題にしたら、採点する人間がない」と反論されてしまった。



早稲田大の田中愛治総長（左）にインタビューするジャーナリストの田原総一郎さん＝いずれも東京都新宿区で2023年5月18日、内藤絵美撮影

<https://mainichi.jp/articles/20230619/k00/00m/040/283000c>

入学試験の成績と卒業時の成績には相関がない 東工大学長が語る 「入試で燃え尽きない人の特徴」とは？

入試

2023/05/08 07:00

筆者：米倉昭仁

AERA dot.



東京工業大学の益一哉学長（写真／米倉昭仁）

<https://dot.asahi.com/dot/2023042800040.html>

なぜ半世紀近く＜偏差値＞批判が続きながら、体制が大きく変わらないのか？

入学試験の成績と卒業時の成績には相関がない 東工大学長が語る
「入試で燃え尽きない人の特徴」とは？

入試

2023/05/08 07:00

筆者：米倉昭仁

AERA dot.

なぜ「冗談半分」「夢」と自嘲せざるをえないのか？

「社会人」の発想には見えない足かせがあるのではないか？

そして益学長は「これは冗談半分なんだけど」とことわったうえで、こう語った。

「例えば、20人のアドミッションスタッフを雇って、その一人ひとりに25人の合格決定権を与える。全国を行脚してもらい、『東工大はこんな人間がほしい』というアドミッションポリシーに沿った500人の合格を決めてきてもらう。残り500人は入試で決定する。そんな選抜システムが実現できれば、より多様な人材を確保でき、かつ教員はより一層教育に注力できるようになる。すると、よい学生が育つと思う。それが夢なんです」

<https://dot.asahi.com/dot/2023042800040.html?page=3>

多様な質を捨象して量化し、
一本の数直線上に並べるべき、
という発想は、資本主義的発想で
強化されているのではないか？

ただし、私が批判したいのは、すべての
数値化ではなく、一元的な数値化



2. 英語力の商品化



-
- 2.1 英語力という商品
- 2.2 偏差値という商品

2.3 英語力テストという商 品の貨幣化

同一商品としてのテストの得点価値を、常に同じものとする技術的操作(等化)は可能

同一テストの等化

$$\boxed{\text{テスト } A_1 \cdot q \text{ 点}} = \boxed{\text{テスト } A_2 \cdot q \text{ 点}}$$

■ 同一テストの異なる版を同一受験者が受験した場合でも、理論的には同じ点数が出るようにする(項目応答理論などでの等化)

■ 等化の代償として、問題を公開できないことなどが生じる。技術的管理も容易ではない。

しかし、かつて文科省はまったく異なるテストの点数の恒常的な交換関係を公式化しようとした。さらにその関係をCEFRの一元尺度と紐づけて、「英語力」一般を示そうとした。

異なるテストの交換関係を恒常化

$$\begin{aligned}
 & \boxed{\text{テストA} \cdot \text{q点}} = \boxed{\text{テストB} \cdot \text{r点}} \\
 & = \boxed{\text{テストC} \cdot \text{s点}} = \boxed{\text{テストD} \cdot \text{t点}} \\
 & = \dots = \boxed{\text{テストZ} \cdot \text{u点}}
 \end{aligned}$$

資料3-1

英語教育の在り方に関する有識者会議
英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会
審議のまとめ 概要

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	英検	GTEC CBT	TOEFL iBT	IELTS	TEAP	ケンブリッジ 英検	TOEIC & TOEIC SW
C2				8.5-9.0		Proficiency (CPE: 特上級)	
C1	1級	1400	110-120	7.0-8.0	396	Advanced (CAE: 上級)	1305-1390
B2	準1級	1250- 1399	87-109	5.5-6.5	334	First (FCE: 上中級)	1095-1300
B1	2級	1000- 1249	57-86	4.0-5.0	226	Preliminary (PET: 中級)	790-1090
A2	準2級	700-999		3.0	186	Key (KET: 上初級)	385-785
A1	3級-5級	-699		2.0			200-380

英検: 日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>

TOEFL: ETS http://www.ets.org/Media/Research/pdf/CEF_Mapping_Study_Interim_Report.pdf

IELTS: プリティッシュ・カウンシル (および日本英語検定協会) 資料より

ケンブリッジ英検: ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>

TEAP: 第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

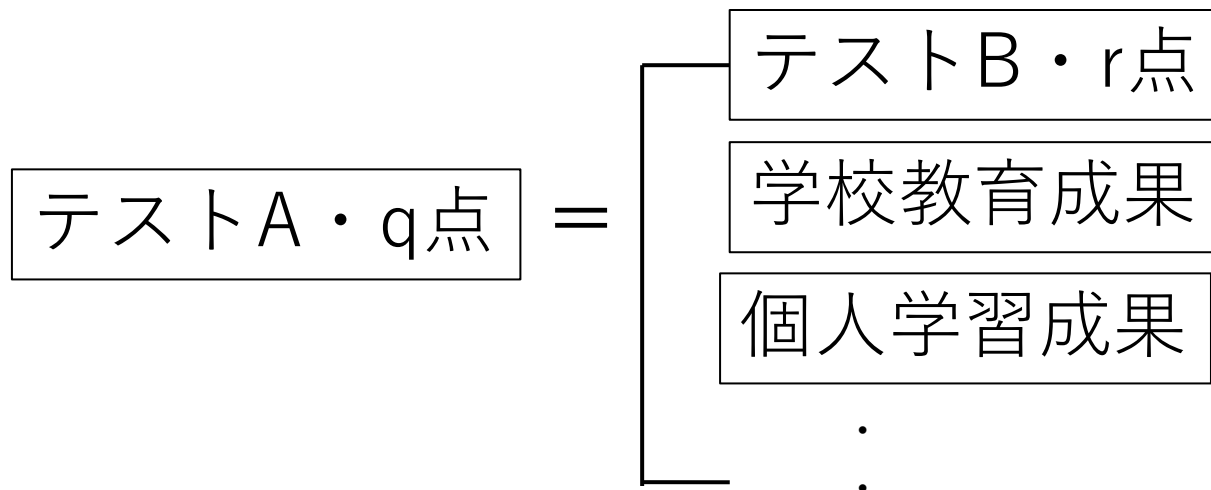
GTEC: ベネッセコーポレーションによる資料より

TOEIC: IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

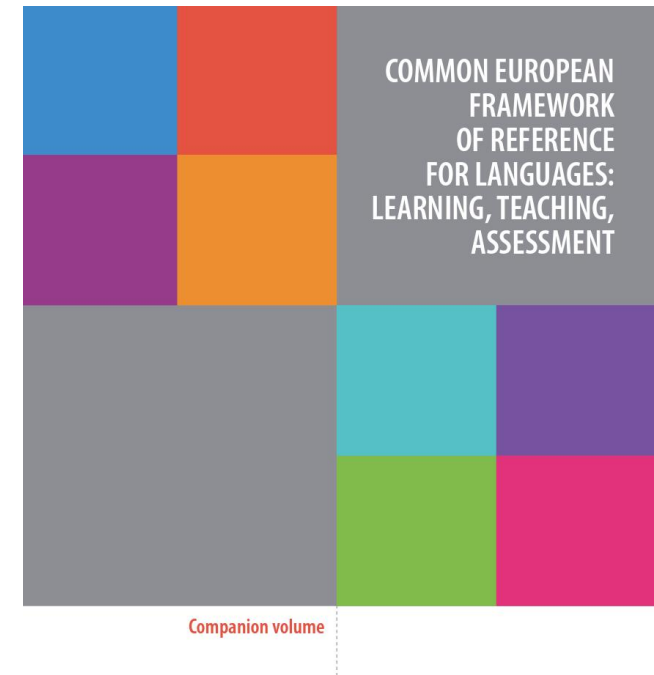
多くの人々の(無自覚の)望みとは、**特定のテストを「貨幣」として**、すべての商品(他のテスト得点・学校教育の成果・個人学習の成果など)を数直線上に並べられる**究極の物差しにする**ことではないか...

一般的価値形態・貨幣形態



CEFRのごく一部の尺度をいわば万能の尺度とすることを、CoEは意図していない。

- the CEFR provides a metalanguage for discussing the complexity of language proficiency for all citizens in a multilingual and intercultural Europe, and for education policy makers to reflect on learning objectives and outcomes that should be coherent and transparent.
- It has never been the intention that the CEFR should be used to justify a gate-keeping function of assessment instruments.



Companion Volume (2020, p.11)

ベネッセが撤退へ 都立高入試の英語スピーキングテスト トラブル多発、本格導入からわずか2年

気になる記事2

「成長は1つの数値指標の増加でしか確かめられない」という想定は何によって強化されているのか？

的な国際文化交流機関「ブリティッシュ・カウンシル」を選んだ。テストでは



貨幣資本の永続的増加を絶対的前提とする
資本主義的発想が、
公的営みの商品化を目指す**新自由主義的潮流**に乗って、
英語教育を大規模標準テストで管理・支配
してしまおうとしていないか。

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/263027>

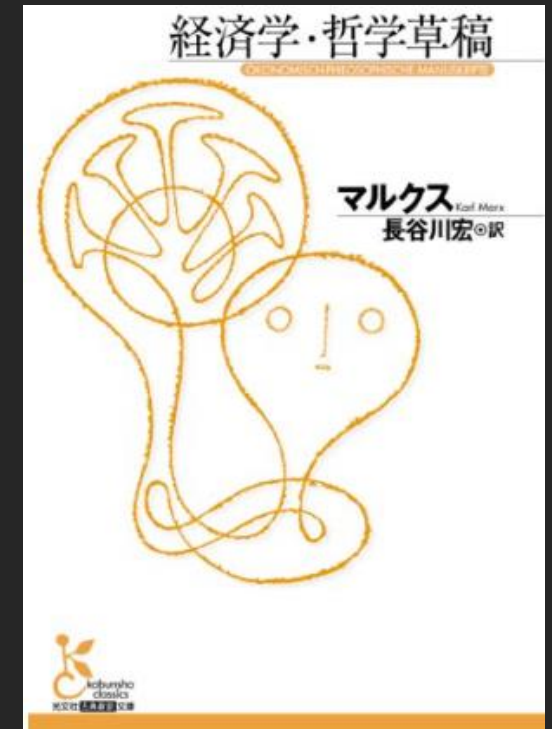
学びや教育の成果を**すべて一本の物差し**で測定し、
学習者や教育機関の**価値をその数値**の増大で定める。

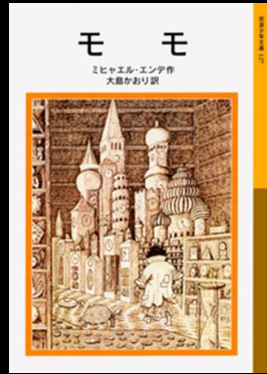
学び・教育という公的な営みを、「**資本の
永続的な増大**」を是とする**資本主義的
制度**で管理しようとする**新自由主義的
な潮流**。

だが、その制度的管理は、**多くの**学習者や
教師を**疎外**する。

疎外論の「労働」を「学習」に換えると…

- 疎外は第一に、**学習が学習者にとって外的なもの、彼の本質とは別のもの**という形を取る。
- となると、彼は学習のなかで**自分を肯定するのではなく否定し、心地よく感じるのではなく不仕合わせに感じ、肉体的・精神的エネルギーをのびのびと外に開くのではなく、肉体をすりへらし精神を荒廃させる。**
- だから、学習者は学習の外で初めて自分を取りもどし、**学習のなかでは自分を亡くしている。**





あるいは資本主義的発想に過剰
適応する



大規模標準テストの「英語力」という商品

- マルクスの分析では、商品は**使用価値**と**交換価値**と（**抽象的な人間労働としての**）**価値**という3つの側面をもつ
- 「英語力」の使用価値（有用性）は、**他人（＝テスト設計者）にとっての使用価値**に過ぎない。
 - 学習者が感じる使用の有用性や喜び（**真価**）は必要ではない。
- 「英語力」の**交換価値は、合格・就職などと交換されて初めて成立**する。
 - 合格・就職できなければ意味はない。
- だが「**何に役立つのかよくわからないが、自分とはとにかく努力をして社会的に認められた**」という（**抽象的な人間労働としての**）「**価値**」は**自負**となる。

究極の商品としての 貨幣への物神崇拜

「若いマルクスは宗教批判から、経済的問題に移行した。しかし、『資本論』において、彼は、**経済的世界こそ宗教的世界にほかならない**ことを見出したのである」（柄谷2010, p. 260）



TOEIC965点取ってよかった。「実務でそこまで必要？」と聞かれると、
実際は800点あれば十分。それでもまだ毎日英語学習する理由は、継続ス
キルは他に転用できるから。965点取るためには、忙しい日も嫌な事があ
った日も、毎日の継続が不可欠。目標達成スキルや忍耐力が付き、仕事で
も活かせる。そして

ある有名ツイッター
アカウントから

239 Following 28.2K Followers

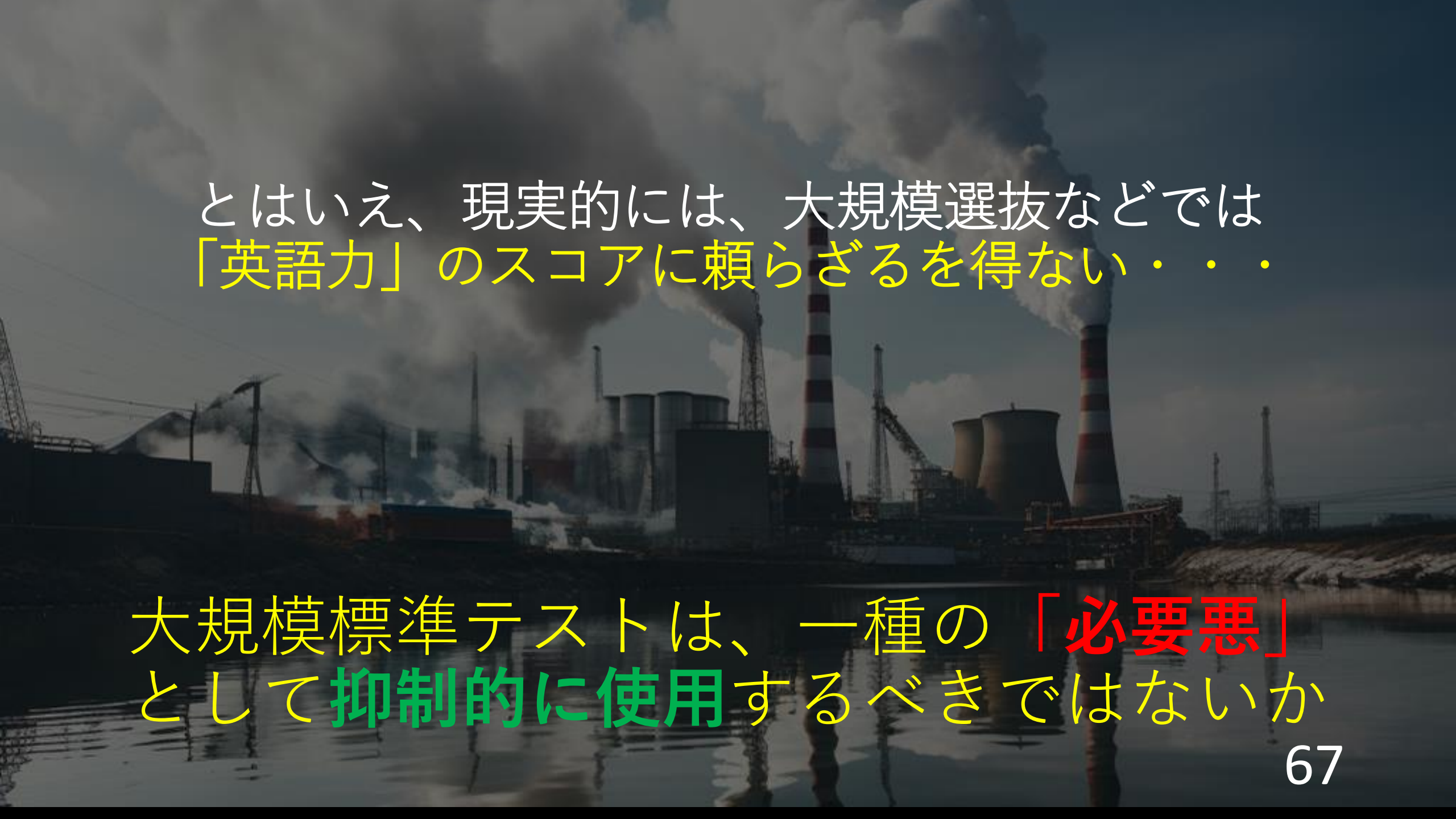
これらのスキルこそが、付加価値を上げてくれる。

考えてみて。95%の人は継続できないと言われている。継続できるだけで
トップ5%。

<https://twitter.com/daisukeeigo/status/1681781699695484928?s=61&t=YnwM1ZGDlxTgP4yqVxqzw>

私も現在は朝活連続1300日、英語学習連続1200日、筋トレ週4~5回を4
年。この継続スキルと忍耐力がついたことでTOEIC965点や英検1級が取
れ、月収も3年で2倍になった。今更に大きな仕事が増え、今年も年収数百
万アップ

テスト得点が、貨幣のようにみなされる。



とはいえ、現実的には、大規模選抜などでは
「英語力」のスコアに頼らざるを得ない・・・

大規模標準テストは、一種の「必要悪」
として抑制的に使用するべきではないか

そもそも名簿から、学習者の「顔」と「声」をありありと思い出す教師は、学習者を一本の数直線に並べることには葛藤を覚える。



“If you want something done but don't want
your hands dirty, McKinsey will do it for you.”
at **escape from accountability** is one of the most
services that management consultancies

だがAIは、人間の
労働も苦悩も「客観
的」かつ**高速・廉価**な
方法で代替してくれる。

THE
NEW YORKER

News Books & Culture Fiction & Poetry Humor & Cartoons Magazine Puzzles & Games Video Podcasts Archive Goings On Shop

ANNALS OF ARTIFICIAL INTELLIGENCE

WILL A.I. BECOME THE NEW MCKINSEY?

As it's currently imagined, the technology promises to concentrate wealth and disempower workers. Is an alternative possible?

By Ted Chiang

May 4, 2023

AIの自動採点システム
で、**教師の労働と苦悩**
を消し去り、かつ**学習**
者を「客観的」な物差
しの上に**並べよう**とす
る**誘惑**は強いのではな
いか。

ベネッセが撤退へ 都立高入試の英語スピーキングテスト トラブル多発、本格導入からわずか2年

2023年7月14日 06時00分

AIによる自動採点テクノロジー
は、科学的な権威をもつ。

気になる記事2

その進展による省力化が大規模標準テストをさらに普及させ、
教師に「評価」の意味を忘れさせる懸念

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/263027>

ここで小さな疑問：
ライティング指導では…

採点 > 添削 > 改訂

それとも

採点 < 添削 < 改訂

AIの利用によって

1. **大規模標準テスト**という**商品**を、これ以上**貨幣**のような形で**公教育**に**浸透**させるべきではない。
2. **人間教師**に、**人間が人間**を「**測定評価**」する**倫理的葛藤**を忘れさせてはならない。

「僕はバカだ、どうせ凡人」の声 通知表を廃止した小学校の決断

大沢瑞季 | 暮らし・学び・医療 | 学び・教育・入試 | 速報 | 神奈川

毎日新聞 | 2023/7/20 07:00 (最終更新 7/20 07:38) | 有料記事 | 2676文字



各クラスで渡される通知表を見て一喜一憂する児童の姿は、終業式の日の一コマになっています。でも、神奈川県茅ヶ崎市の市立香川小学校では、そんな光景が見られません。教員が議論を重ね、通知表を廃止したからです。そもそも通知表は必要なのか。前校長の國分一哉さん（61）に聞きました。【大沢瑞季】

一元的な点数化
や尺度化を減らす
ことは夢物語では
ない。

<https://mainichi.jp/articles/20230713/k00/00m/040/170000c>

2 英語教育の商品化と格差拡大の阻止

—

2.1 英語力という商品

2.2 偏差値という商品

2.3 英語力テストという商品の貨幣化

2.4 格差拡大の阻止

商品としての大規模標準テストを 公教育に浸透させることが生み出す格差

- 利潤優先であり、**ハンデをもった者の不利益や出費**がかさむ。

- **少数の競争力をもった学習者・教師**は、**テスト高得点対策**に集中

- 「競争力」：天与の才能と保護者の経済力
- 「テストの高得点」：現実世界での有用な英語使用に結びつくとは限らない。

- **多くの学習者・教師**は、英語授業に喜びを見いだせず、**疎外感**をつのらせる。

➔ **社会格差の固定化。社会全体の力も失われる。**



英語の「話す力」を東京都立高入試に使うため、昨年から始まった英語スピーキングテストを巡り、都教育委員会は13日、出版大手「ベネッセコーポレーション」が本年度で運営を終了すると発表した。かつて日本で唯一の公的な国際文化交流機関「国際文化センター」を運営してきたベネッセは、AI機器の不具合や言滞のトラブルが頻発したほか、運営や採点方法など多くの問題が浮上。ベネッセは当初から運営に苦しみ、今年度から入試から今年度で撤退する形となった。（三宅千智）

多くの現代人が内在化している資本主義的・新自由主義的発想を自覚しない限り、現状の歪みはAIによって増幅されるだろう。

◆ベネッセは応募せず

テクノロジーは善悪無記であり、善用も悪用も人間次第である。

め、6月9日まで事業者を募ったところ、ベネッセは応募しなかった。今こそ、人文社会的素養が重要。

昨年11月の英語スピーキングテスト＝東京都教育委員

提供

今年11月に実施予定で、来年の入試に使われる中学3年のテストはベネッセが担う。23年度から新たに導入する中学1、

まとめ

発表者が、避けるべきと考えるAI利用：
公教育を資本主義的なゲームにするためのAI利用

- 資本主義的・新自由主義的発想の普及で、人々はさまざまに異なる質を、一元的な数値尺度に還元する発想に疑いをもたなくなかった。
- 大規模標準テストが定める「英語力」の観念は、英語教育関係者の思考と行動を大きく規定している。
- しかし一元的な数値還元は、多くの学習者と教師を疎外する。
- 大規模標準テストが商品である場合、その準備対策で格差は拡大する。

本日の構成

1. はじめに：AIを活用する実践者としての
批判的考察
2. 英語教育の商品化と社会の格差拡大の阻止
3. **英語授業における自由と（尊厳と
権利における）平等の促進**
4. おわりに：残された課題・さらなる指針



3



英語授業における自由と(尊厳と権利における)平等の促進

偽善的な説教師にならないように、実践的に考えて行動するニャン。

- 3.1 世界人権宣言の身近な実践
- 3.2 優先すべき信念


3. 英語授業における自由と (尊厳と権利における)平等*の促進

—

3.1 世界人権宣言の身近な実践

3.2 優先すべき信念

注：ここでの「平等」とは、理念として設定する尊厳と権利における平等である。経済的格差は、人間の尊厳と権利を損なう限りにおいて是正の対象となる。

A dark, apocalyptic scene of a city in flames. In the foreground, several soldiers in tactical gear are silhouetted against the bright orange and yellow fire. The background is filled with thick, billowing black smoke and falling debris, creating a sense of chaos and destruction. The overall atmosphere is grim and somber.

21世紀でも、
近代の課題は
未完のまま

世界人権宣言 (1948年国際連合総会)

前文

人類社会のすべての構成員の固有の尊厳と平等で譲ることのできない権利とを承認することは、世界における自由、正義及び平和の基礎である

第1条

すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。

尊厳・権利の平等と自由は身近なところで侵されている

「聞いてるふり」は通じない？ 集中しない生徒をリアルタイムで把握 教員からは期待、「管理強化」に懸念も

6/21(水) 10:00 配信 1394



リストバンド型端末と、脈拍データを集約してサーバーに送る小型機器

授業中の生徒が集中しているかどうかを、教師がリアルタイムで把握する。まるで漫画や小説の世界のような取り組みが、ある公立中学校で試験的に始まっている。生徒の脈拍から「集中度」を割り出しているといい、校長や教員からは、上手に活用すれば教育をより良くできると期待の声が上がる。

一方、使い方次第では子どもや教員の管理強化にもつながりかねない。現場を訪ねると、驚きの光景が広がっていた。（共同通信＝小田智博）



生徒の手首にはリストバンド、教諭の手元には「集中度」の折れ線グラフ

昔、ある教育雑誌で目にしたことば

「あなたはいろいろな英語教育の理屈を言うが、まったく生徒の名前を覚えようとしない。そんな人には教育実習に来てほしくない」

今なら**パワハラ発言**になるかもしれないが、**AIで教員の権力 (power) が強化される以上、教員の人権感覚**は決定的に重要。



3. 英語授業における自由と (尊厳と権利における)平等の促進

—

3.1 世界人権宣言の身近な実践

3.2 優先すべき信念

発表者の現在の実践： ChatGPTが可能にした学習者の教材選択

ChatGPTとの対話的語彙課題

- 【一斉テストで管理せず、学習者が身につけたい語を選ばせる】
- 学習者はさらにその語の定義・例文・類義語のどれを学ぶか決める
- 学習者はChatGPTと対話しながら疑問点を明らかにしてゆく

発表者が学んだこと

- 発表者は当初、ChatGPTに対して例文を提示せず、単語の説明ばかりを求める学習者に苛立ちを感じていた。
- だが、学習者のレポートを読むにつれ、一部の学習者はまだ例文を作る段階にないということ（当たり前）ことに気づいた。

発表者の現在の実践： ChatGPTが可能にした学習者の目標設定の自由

ChatGPTが添削と改訂を提供

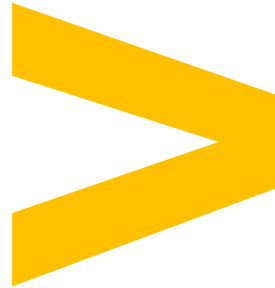
- 【ライティングのテーマは指定せずに**自由選択**】
- 学生の英文の欠点を指摘する**添削 (correction)**よりも、**可能性を示す改訂 (revision)**を重視
- 改訂は2種類提示され、学生は**自分で自分の声を見つける**。

発表者が学んだこと

- 発表者は、**添削について何の評価も採点もしなかった**。学習者は**かえって自らの誤りに真摯に取り組んだ**ように思える。
- 学生は、**米国の大学入学レベルと学術誌レベルの2つの改訂を見比べながら、自分の文体を見つける**。（同時に判断の根拠を発表者がチェックする）。

人権尊重のためのAI活用で優先すべき信念

- **Learner Autonomy**
- **Individuation**
- **Appreciation**
- **Pragmatism**
- **Autopoietic System**



- **Teacher Control**
- **Standardization**
- **Measurement**
- **Logical Positivism**
- **Allopoietic System**

**AI for
freedom
and
equality in
dignity and
rights.**

Not for
**oppression and
disempowerment**



次々に登場するAIという商品に振り回されてはいけない。

「AIは何ができるか」ではなく、
「人間はAIに何をさせるか」
という問いへの変換

もちろん「資本主義はAIに何をさせるか」という
資本主義主体の問いであってはならない。

本日の構成

1. はじめに：AIを活用する実践者としての批判的考察
2. 英語教育の商品化と社会の格差拡大の阻止
3. 英語授業における自由と（尊厳と権利における）平等の促進
4. おわりに：残された課題・さらなる指針



4

おわりに



「大きな物語」が
復活するニャン
(笑)

- 4.1 まとめ
- 4.2 残された課題
- 4.3 さらなる指針

4. おわりに

—

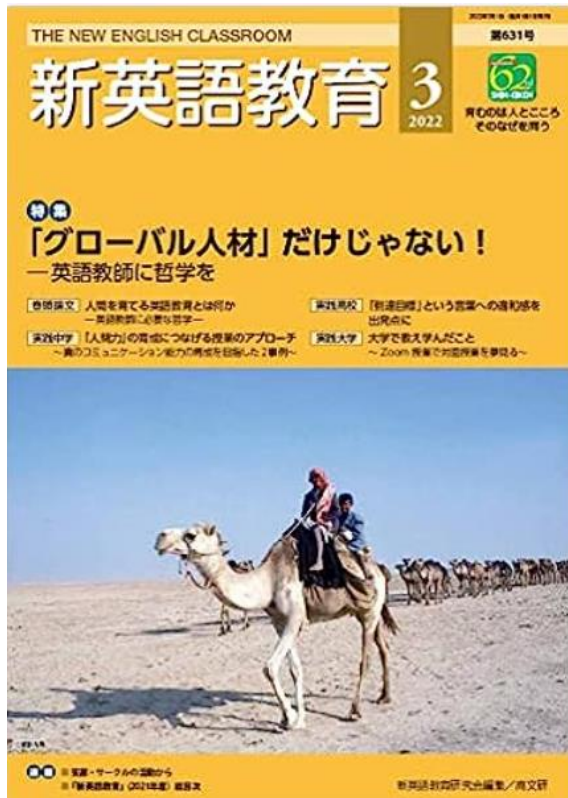
4.1 まとめ

4.2 残された課題

4.3 さらなる指針

柳瀬陽介 (2022)

「人間を育てる英語教育とは何か--英語教師に必要な哲学」
『新英語教育』2022年3月号 pp.7-9



- 忙しさに追われる中で、私たちはいつしか思考を停止してしまう。(中略)
- 「一度、私たちの仕事について根本的に考え直してみましよう」と提言してくる者がいれば睨み倒してしまうかもしれない。
- だが人々がそうして余裕をなくしてしまった時、社会は正気を失う。

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/03/2022-20223pp7-9.html>

本発表の主な論点

1. 発表者は、**積極的にAI活用をする実践者**だからこそ、AI活用には**長期的指針が必要**と考えている。
2. 「**AIは何ができるか？**」という技術主導の問いから、「**人間はAIに何をさせるのか？**」という人間主導の問いへの転換が必要。
3. 人間は、**AIに近代社会の歪みをこれ以上悪化**させてはいけない。
4. **資本主義・新自由主義的行動様式**で人間をこれ以上**疎外し格差**を拡大してはならない。
5. 「**英語力**」という観念は、あらゆる**質を捨象して一元的な貨幣価値に変換する資本主義的発想**に親和性が高い。
6. AIによって、「**英語力**」の**貨幣化**を加速させるような**教育測定システム**を作ってはならない。
7. AIによって、自律的学習を促進し、**学習者の自由と（尊厳と権利における）平等を促進**するべき。

4. おわりに

—

4.1 まとめ


4.2 残された課題

4.3 さらなる指針

失敗のシナリオとして考えられるのは次のようなものです。経済的・社会的・文化的に恵まれた家庭に育つせいぜい10%（おそらくはそれよりずっと少数）の子どもは確かに英検やTOEFLなどの得点をそれなりに上げるものの、現実社会を生き抜くコミュニケーション能力はあまり身につかない。90%以上の子どもは、英語教育により挫折感・疎外感・無力感を強くし、内向き傾向を強める。一部の子どもは外国人を糾弾することで自らの誇りをささえる悪癖に陥る。社会全体としては、公教育が信頼を失い、力を失う。その結果、ごく一部のエリートと大多数の庶民の間の格差が広がり固定化する。日本の民度が全体的に下がり始める・・・



2015年時点
での予測



学校の 行動様式を 脱資本主義的 なものにする

そのための
もう少し具体的な
指針がほしい



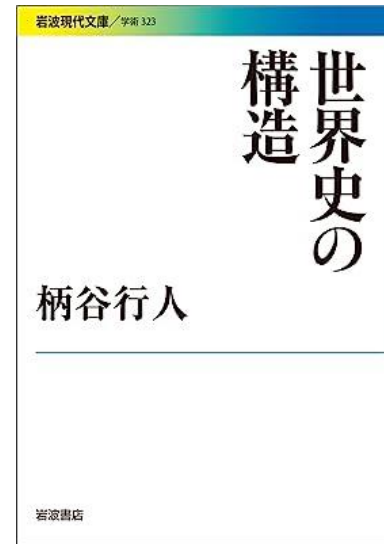
柄谷行人 (1941-)

2022年にバーグルエン
哲学・文化賞を受賞

過去の受賞者は、チャールズ・テイ
ラーやピーター・シンガーなど



1989



2010



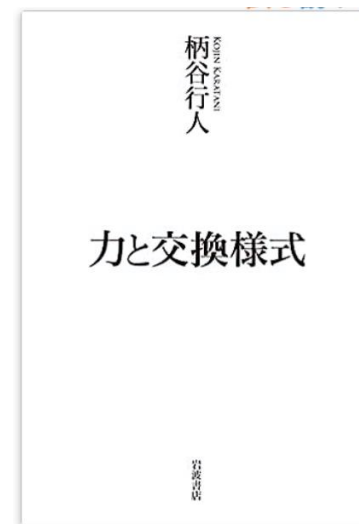
1978



1986



2001



2022

公開シンポジウム in 横浜 **第二弾**

人を育てる英語教育

田尻信郎の授業は大学生の人生にどう影響を与えているのか

日時: 2023年8月26日(土) 13:00~16:30
会場: 神奈川大学みなとみらいキャンパス4階(4019講堂)

参加費: 無料 * 要予約(先着300名まで) <詳しくはこのチラシの裏面を参照>


12:30~13:00 受付
13:00~13:05 開催趣旨と当日の流れの説明
第一部 田尻先生、語る
13:05~14:30 講演「私の教育理念と実践」(講演者=田尻)
14:30~14:50 休憩
第二部 田尻実践の分析
14:50~15:20 パネルディスカッション(司会=横溝、パネリスト=久保野・田尻)
15:20~15:50 インタビュー-調査者からの報告(報告者=柳瀬)
15:50~16:20 質疑応答(司会=横溝)
16:20~16:30 まとめ

講師
田尻信郎(関西大学外国語学部教授)
久保野雅史(神奈川大学外国語学部教授)
柳瀬陽介(京都大学国際高等教育院教授)
横溝紳一郎(西南学院大学外国語学部教授)

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/06/826.html>

99

そもそも外国語教育は、その定義上、
市民の関心を身近な生活空間よりも
広い範囲に向けさせるべき



資本主義大国アメリカに追従することで職の安定を得ていた英語教育業界。

だが、今、資本主義の1つの帰結であるAIによって、職が脅かされる不安に動揺。

人新世の「資本論」

2021
新書大賞
supported by
Chamber of Deputies
第1位

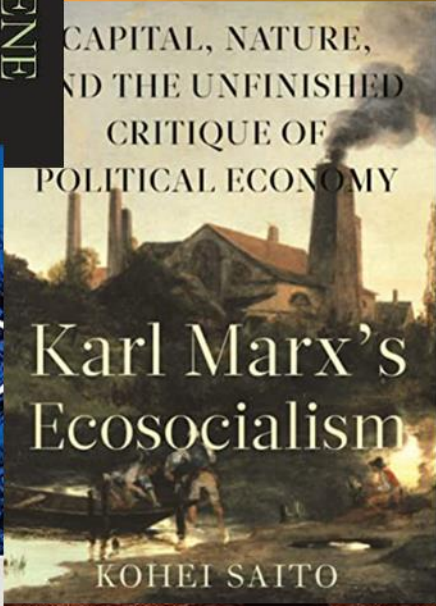
斎藤幸平
大洪水の
前に
BEFORE THE GREAT FLOOD
マルクスと惑星の
物質代謝

角川ソフィア文庫
「マルクスへ帰れ！」
資本主義と環境危機を包括的に論じ
新たな社会システムを構想する——。
ドイツチャー記念賞受賞作

MARX IN THE ANTHROPOCENE



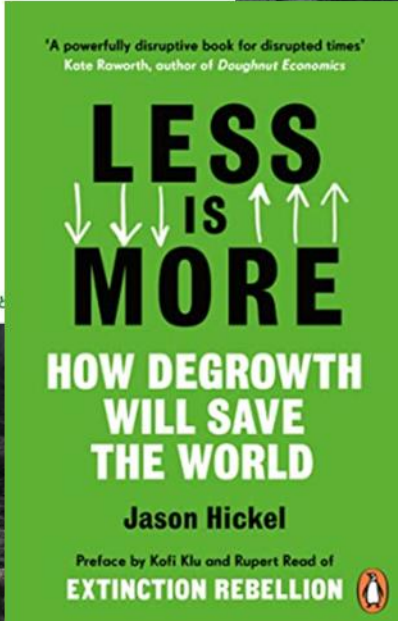
CAPITAL, NATURE,
AND THE UNFINISHED
CRITIQUE OF
POLITICAL ECONOMY
Karl Marx's
Ecosocialism
KOHEI SAITO



「英語力」の向上を
至上目的として、
資本主義的生産体制に非常に親和的
な英語教育は、
資本主義的生産体制の全地球的な帰
結について、どう
考えるべきなのか



「少ないほう
が豊か
である。」
成長を必要と



きらびやかな商品が
あふれる日本の外国
語教育関係者は、
グローバルサウスへ
の世界史的関心を深
める必要があるの
ではないか

筆者はスワジランド王国
(現在：エスワティ王
国) の出身

(批判もある)SDGも世界史的に理解することは重要

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/preamble/>

あなたは
どんな未来を
えがきますか？



ストーリーを見る ▶

4. おわりに

—

4.1 まとめ

4.2 残された課題

4.3 **さらなる指針**

AIテクノロジーへの対応は
これから必須。
発表者もAI活用実践を続けます。

しかし教育の究極の目的を忘れてはならない

世界がそもそも*幸福にならないうちは
個人の幸福はあり得ない。

*原文は「そもそも」ではなく「ぜんたい」だが、誤解を避けるために修正

宮沢賢治の『農民芸術概論綱要』の「農民」を 「教師」に換えるなどして改変（1/3）

ここに集う私たちはみな
教師である。

ずいぶん忙しく仕事もつ
らい。

もつと明るく生き生きと
生活をする道を見つけた
い。

昔の先輩の中にはそっうい
う人も多くいた。

自然科学が実証する知
識と、生きる道を求める
実践の知恵が一致するか
を、私たちの直観に基づ
き論じたい。

宮沢賢治の『農民芸術概論綱要』の「農民」を 「教師」に換えるなどして改変（2/3）

世界がそもそも幸福に
ならないうちは個人の
幸福はあり得ない。

「私」という意識は、個
人から集団、社会、そ
して大自然へと次第に
進化する。

この方向は昔の聖者が
自ら実践し私たちに教
えた道である。

宮沢賢治の『農民芸術概論綱要』の「農民」を 「教師」に換えるなどして改変（3/3）

新しい時代では、あたかも世界が一つの意識をもった生き物のようになる方向にある。

一人ひとりが正しく強く生きるとは、宇宙全体を自らの中に意識してこれに応じて生きていくことである。

私たちは世界の本当の幸せを追求してゆこう。そうして求めてゆくことが既に道である。





「雨ニモマケズ」

ミンナニデクノボートヨバレ: 皆からは木偶の坊と呼ばれ

ホメラレモセズ: 評価されず

クニモサレズ: 相手にもされず...

サウイフモノニ: そういった人に

ワタシハナリタイ: 私はなりたい

大変化の時代に こそ長期的指針 が必要

yanase.yosuke.3n@kyoto-u.ac.jp